

社会科 学習指導案

指導者 及川 克子

1 日時 平成25年10月10日(木) 5校時 1C教室

2 学級 1年C組 男子16名 女子12名 計28名

3 単元 第3章 「世界の諸地域」
第3節 アフリカ州 ―おもな生産品にたよる生活からの変化―

4 単元について

(1) 教材について

学習指導要領では、ウ「世界の諸地域」の各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、それを基に主題を設けて、それぞれの州の地域的特色を理解させるとある。また、主題の設定においては教師によって設定されるものであるとされていることから、以下の理由により、本単元の主題を「おもな生産品にたよる生活からの変化」とした。

人類発祥の地とされるアフリカは、北緯37度から南緯35度付近に位置し、今や54カ国を数え、世界人口の14.5%を占め、アジアに次ぐ人口爆発地域となっている。ヨーロッパ諸国の植民地として長く支配され、プランテーション農業と鉱山開発を強いられ、文化的境界を無視した人為的な国境線を画定された歴史がある。1960年の「アフリカの年」を境に、次々と独立し、国家づくりに歩み出したが、植民地支配の影響が今も残り、脆弱なモノカルチャー経済と歴史的な民族対立から、内戦や紛争が絶えず貧困や難民の問題も多い。人口急増にともなう食糧不足、さばく化の進行、エイズなどの感染症の広がりなど、先進国や新興国からの支援を受けながら取り組む課題は少なくない。人口とGDPの関係をみると、ヨーロッパ州は世界人口の11.1%で世界のGDPの35.4%を占めるのに対し、アフリカ州は、ヨーロッパ州より人口は多いのにもかかわらず、GDPはわずか2.5%である。そこで本単元では、ヨーロッパ州とのGDPの対比から、アフリカ州が農産物にたよるモノカルチャー経済であることをつかみ、諸問題の解決に必要な経済発展のためにどのような動きがあるかを問題解決的な学習課題を通して、アフリカの地域的特色を調べることにした。

(2) 生徒について

生徒たちは、全体的に明るく、授業への反応は良い。しかし、発言する生徒は特定の生徒に限られ、進んで発言することができない生徒が少なくない。新しい物事を知ることに対する興味関心が強く、素直に思ったことを口に出す生徒が多い。中には感覚的に発言し、自分勝手な発言で終始してしまう生徒もいる。また、論理的に考えたり、根拠に基づいて発言したりすることを苦手とする生徒が多い。グループでの活動は協力的であり、作業にも堅実に取り組むことができる。

アフリカ州については、かつて植民地であり、ヨーロッパの国々が引いた境界線が今も国境として使用されていることやサヘルの生活と環境については学習済みであるが、アフリカに関する知識は、断片的であり、関心もあまり高くない生徒が多い。

(3) 指導について

学習指導要領と生徒の実態を踏まえたうえで、以下の2点に重点をおいて指導する。

① 生徒の学習意欲や課題意識を高める指導の手立て

ア 映像資料や写真資料を生徒に示すことで、アフリカの自然や人々の生活の様子をできる限り具体的にイメージさせ、学習意欲や課題意識を高める。

イ 生徒の持つアフリカのイメージ、「乾燥した土地に暮らす人々」で学習した既習事項を基に、アフリカのあらまし、概要を大観させ、基礎的・基本的知識を得たうえで、単元を貫く学習課題を設定し、問題解決的な学習を展開することで、主体的な課題追究活動に取り組ませる。

② 思考力・判断力・表現力を高める指導の手立て

ア 地理的事象を多角的・多面的に考察する力を育てるために、小グループでの話し

合い活動を取り入れる。その際、はじめに自分の考えを持たせようとして、小グループの話し合いを行わせる。また、既習事項を活用しながら、各種資料や地図の丁寧な読み取りを行わせ、根拠を明らかにしながら話し合い活動を進める。

イ 自分の考えを文章化して表現できるように、学習シートや自己評価表に記述する習慣をつけさせる。文章化して表現する指導を繰り返すことで、根拠をもって意見や考えを表現する力を高めていきたい。

5 単元の指導計画（計4時間）

《観点》＝《関：社会的事象への関心・意欲・態度 思：社会的な思考・判断・表現 技：資料活用 of 技能

知：社会的事象についての知識・理解》

到達目標			
社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用 of 技能	社会的事象についての知識・理解
アフリカ州について興味・関心を持ち、学習課題に対して意欲的に取り組もうとしている。	アフリカ州の特色について、多角的・多面的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	アフリカ州の地域的特色について、さまざまな資料の中から適切な資料を選択し、適切に読み取ったり文章にまとめたりしている。	アフリカ州の自然環境や、歴史、産業などの特色を概観し、それぞれの基本的な知識を理解している。
学習内容と具体の評価規準			
学習活動と時数	B：おおむね満足できると判断される状況	A：十分満足できると判断される状況	
(1) 1/4 2/4 1 アフリカ州をながめて アフリカの自然、歴史と文化、産業の特色について雨温図、分布図、写真などの資料から概観し、基礎的・基本的な知識を身に付ける。 アフリカの地域的特色を身につけるために学習課題を立て意欲的に追究する。	アフリカを概観する中で、産業の変化に関心を持ち、その過程を意欲的に追究しようとしている。(関) ----- 広大なさばくを持つ自然、古い歴史と伝統的文化、農業や工業を中心とした産業などの特色を概観し理解している。(知)	Bに加え、学習で深めたいことについて考えようとしている。 ----- Bに加え、より多面的にアフリカの特色をとらえて理解している。	
(2) 3/4 (本時) 2 アフリカの産業と新たな開発 カカオや希少金属の生産など、日本人の生活とかかわりが深いアフリカの産業に関心を持つ。 アフリカのプランテーション農業やモノカルチャー経済の実態について、主題図や貿易統計などから読み取る。	アフリカの産業に関心を持ち、アフリカの農業や工業を意欲的に調べようとしている。(関) ----- アフリカの農業と工業の特色を様々な資料の関連付けから読み取っている。(技)	Bに加え、日本人の日常生活とのかかわりにも関心を向けようとしている。 ----- Bに加え、問題点も指摘している。	
(3) 4/4 3 アフリカの課題と展望 アフリカの課題について、都市化、人口増加、環境問題などの視点を踏まえて理解している。(知)	現在のアフリカの課題について、都市化、人口増加、環境問題などの視点を踏まえて理解している。(知)	Bに加え、課題への解決策についても理解している。	

境問題などの視点から理解する。 学習課題の答えを、自立へ向けての様々な努力を踏まえて考察する。	アフリカの変化と自立へ向けての課題について、教科書の写真を比較しながら記述している。(思)	Bに加え、自立への課題の意見交換をしている。
--	---	------------------------

6 本時について

(1) 到達目標

【「興味・関心・意欲」に関する目標】

- ・アフリカの産業に関心を持ち、アフリカの農業や工業を意欲的に調べようとしている。

【「資料活用の技能」に関する目標】

- ・アフリカの農業と工業の特色について様々な資料を関連付けながら読み取っている。

(2) 評価方法

評価 観点	A=十分満足できると判断される状況とその例	B=おおむね満足できると判断される状況とその例	C=努力を要すると判断される状況の生徒への指導の手立てとその例
関	Bに加え、日本人の日常生活とのかかわりにも関心を向けている。 〇OPECを調べた時に、アフリカにも加盟国があったから、日本に石油を輸出している国があるかを統計で調べようとしている。	アフリカの産業に関心を持ち、アフリカの農業や工業を意欲的に調べようとしている。 〇GDPの低さから、「工業が盛んではないかも」と考え、資源の分布等を調べようとしている。	カカオなどの写真を提示し、アフリカで生産されているものに興味を喚起させる。 〇カカオの写真に興味を持ち、どこでどのように生産されているのか調べさせる。
評価手段：発表意欲。学習状況。自己評価シートの記述内容。			
技	Bに加え、問題点も指摘している。 〇輸出品目の内訳から、一次産品中心で輸出額が低い国と工業製品中心で輸出額が高い国の違いを読み取り、経済発展への課題を指摘している。	アフリカの農業と工業の特色を様々な資料の関連付けから読み取っている。 〇主題図やグラフから、地域によって鉱産資源の分布や農産物の分布にかたよりのあることを読み取っている。	アジアやヨーロッパで学習した資料の読み取りを想起させる。 〇今までの学習を思い出して、グラフから輸出品の品目の特徴を読み取らせる。
評価手段：学習シートの記述内容。発表内容。定期テストの解答内容。			

(3) 授業構想（研究内容との関連）

ア 学習課題の設定理由

「目標と指導と評価の一本化」を念頭にして、単元の到達目標「アフリカ州の地域的特色について、さまざまな資料の中から適切な資料を選択し、適切に読み取ったり文章にまとめたりしている。」から、本時の到達目標を「アフリカの農業と工業の特色を様々な資料の関連付けから読み取っている。」と設定した。そして、産業の特色を調べることが農業や工業の特色を読み取ることに繋がると考え、学習課題は「アフリカ州の産業にはどのような特色があるのだろうか。」と設定した。

イ 見通しのもたせ方（予想・方法選択・モデル理解等）

アジア州やヨーロッパ州で学習したことを活かしながら、アフリカの産業にはどのような特色があるのかについて予想を立てさせる。さばく化の広がりや乾燥帯は農業に適さないことなどの既習内容等から、農業がさかんでないという予想が出てくることが想定される。既習事項の工業化が経済発展につながることをいかして、ここでも工業への着目を促しつつ、GDPの低さとの関連にも気付かせたい。生徒たちの中から出てきた予想に沿って、どうやって調べていくかを考えさせ、主題図や統計資料を調べていくことを確認する。最終的には、特色について自分の言葉でまとめること、ペアで交流し合うことを見通させる。

ウ 個々の課題追究の場面

グラフや主題図の資料から読み取り、課題について熟考する時間をとり、自力で考え

させる。課題解決の記述欄は、書き方を指定してまとめさせる。まとめたことは、交流し合うことを予告して取り組ませる。

エ 能動的なかかわり合い

グラフや主題図の読み取りを発表する過程で、自分と他との読み取りの共通点や相違点に気付かせたり、自分の考えをペアで交流し合ったりすることによって、資料活用の技能を高めさせる。このかかわり合い方は、「伝え合い、学び合い」であると捉えている。また、生徒の「認められたい、確かめたい、高めたい、学びたい」という能動的な意識に配慮した。

オ まとめの仕方

資料から読み取ったことをもとにして、文章でアフリカの経済の特色について学習シートに記述させる。記述したものをペアで読み合い、自分のまとめと比較したり、伝わるかどうかを確かめたりして、その後、全体で交流しまとめる。文章でまとめることに抵抗感が大きい生徒に対しては、まとめのひな型やキーワードを提示し、言語活動への抵抗感の軽減を図る。

カ 自己評価の仕方

自己評価シートを用いる。何がわかったのか、何を学んだのかを記述させる（目標と指導と評価の一本化）。

(4) 展開

段階	学 習 過 程 ★個々の能動的な意識	学 習 活 動	
		生徒の活動 (○主発問等 ●具体的な活動)	・指導上の留意点 【教材教具、資料等】 ◆評価
導 入 (10分)	1 振り返り ★確認したい ★向上したい	1 「アフリカの概要」について小テストで確認する。	・口頭での出題 【答えの紙版書】
	2 見通し確認 ★何を学ぶのか ★何ができればよいのか	2 アフリカの経済について学習することを確認する。	・教師から課題を提示する。
	3 課題把握	3 課題を把握する。	・学習プリント配布
	学習課題 アフリカの産業にはどのような特色があるのだろうか。		
展 開 (35分)	4 予想 方法選択 モデル理解 ★どのようにやればいいのか	4 予想を立て、調べる方法を確認する。 ●予想する。 ・GDPが低いから、工業は発展していない。 ・さばくが広がっていて、乾燥帯が多いから農業はあまりさかんでない。	・予想を地図やグラフを読み取ることで確かめ、特色を文章にまとめることを確認する。 ・産業について調べることで、経済状況をつかんでいくことを知らせる。
	5 個々の課題追究 ★分かったい ★もっと知りたい	5 学習課題について調べる。 ●地図やグラフからアフリカの産業について調べる。 ・輸出品の違いで輸出総額に大きな差がある。 ・工業製品の輸出が少ない。	・自分の読み取りをプリントに記入する時間をとり、その後で全体で話し合う。 ・自分の考えを自分の言葉で発表するよう支援する。 ◆技
	6 能動的なかかわり合い ★自分の考えを確かめたい ★他の考えを学びたい	6 アフリカの産業の特色について分かったことをまとめる。	・自分のまとめをペアで交流し合う。
	7 課題解決	7 課題を解決する。 ●発表内容のまとめを聞く。	・生徒の発言を板書にまとめる。
終 末 (5分)	8 まとめ	8 まとめる。	
	<p>まとめ</p> <p>アフリカの多くの国では、わずかな種類の商品作物や鉱産資源を輸出して経済が成り立っているが、工業の発達は遅れている。しかし、資源に恵まれ、工業が発達している国も一部にみられる。</p>		
	9 自己評価 ★学んだことをまとめたい ★何を学んだか	9 自己評価する。 ●項目に従って記入する。	・自己評価カードに記入させる。 ◆関
	10 次時予告 ★向上心	10 宿題と次時の学習内容の確認を行う。	